



渋川女子高校で美術を担当している下田紀史先生に美術部生徒の群馬県展入選作品・入賞作品を紹介していただきました。力作揃いです。ホームページにアクセスしてカラー版でお楽しみください。



加部木乃美「仮面を外して」
2019年度2年



高田美雨「俯仰」
2019年度3年



内山颯貴「またいつか」
2019年度3年



立見涼華「朝日影」
2019年度2年



島田悠花「空の花籠」
2019年度2年



早坂潤麗「君を見つけた」
2018年度1年



竹内美樹「春愁」2018年度3年 *佳作賞



荒井深優希「過ぎ去りし日々」2017年度1年



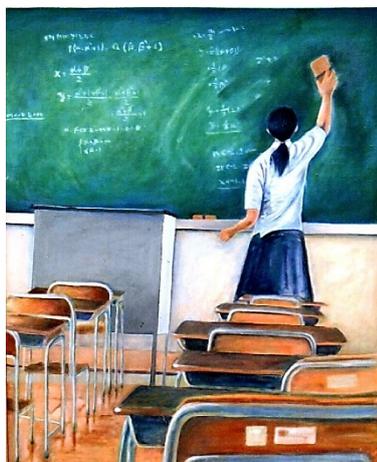
増田琴瀬「光陰」
2017年度3年 *奨励賞



萩原空「受け継ぐ想い」
2017年度2年



高橋杏奈「沈黙の時」
2016年度1年



佐藤希美「放課後」
2016年度2年



佐藤木乃美「私と友達」
2016年度3年



坂本若菜「MOCCO」
2015年度3年 *S賞



都丸百花「SGの像」
2015年度3年

ちなみに特に印象に残っている生徒といえば最初に三年間教えた都丸百花と坂本若菜。二人は卒業の2016年3月に渋川市美術館で卒業記念個展を行いました。都丸は多摩美術大へ進み、坂本は医療看護系へ進学。共に今年3月に卒業します。

1988年、渋川高校に転勤して14年で定年退職。そのまま非常勤講師として勤務して通算31年が経過しました。2012年から渋川女子高校も受け持つことになって、しばらく無聊を託っていた状態から脱出し、また部活指導への情熱が湧いてきました。非常勤だから授業が終わればさっさと帰っていいわけですが、いつい下校時間の6時まで面倒をみてしまいます。

2014年、群馬県美術展が高校生の出品無料の方針を打ち出したことを機に、生徒に挑戦させようと、この年から出品を始めました。絵画以外に彫刻も出品するようになったのは、3年生は6月には部活引退し放課後に絵を描く時間やゆとりはないので3年1学期の彫刻の授業で制作する形をとることにしたからです。ただし週1回2時間の枠の中でやっていくのでかなり厳しい。石膏取りはとても無理なので粘土で作ったものを、中をくり抜いて焼成して仕上げるテラコッタという方法をとっています。普通高校で特別充実した設備が整っているわけでもなく、時間的余裕も厳しい中でなんとか知恵と工夫と情熱で乗り切っているといった状況です。

